



皆既日食

皆既日食が日本の陸地で観察できるのは1963年7月21日の北海道東部で観察以来、実に46年ぶり。次回は2035年9月2日で北陸・北関東など。このまたとない機会を利用して金川小学校では日食観察会を開催しました。

46年ぶりの天体ショー — 日食観察会 —

金川小学校

7月22日、田川市の小中学校教員で組織する教科等研究会理科部会が、皆既日食観察会を行い、児童・保護者など90人を超える人が金川小学校の体育館に集まりました。

弓削田小学校の中森元教諭などが講師となり、①日食観察クラス作成②観察の諸注意③日食がおこる仕組み④いろいろな観察方法などの学習を取り入れながら、9時37分の日食の始まりから12時18分の日食の終わりまでの約3時間、20分ごとに観察と記録を行いました。

10時56分の日食の最大時には、周辺の明るさが変わり、涼しくなったのを参加者全員で体感。90%以上の太陽が月に隠されたにもかかわらず、明るさが残っていたのには、改めて太陽のすごさを実感



しました。

観察方法はいろいろ。天体望遠鏡を使ったり、壁に鏡で反射させて変化した太陽の様子を見たり、「ピンホールの原理」を使った空き箱の観察箱・テレホンカードの小さな穴や木漏れ日で見たり、インターネット中継など。泳力補充の練習をしていた児童や教諭たちも、途中でプールサイドにさがり遮光板を使って日食を観察。金川小学校全体が日食に燃えていました。

6年生の撮影で来ていた写真家の和田三千徳さんも、急ぎ日食観察用フィルムを利用して日食を撮影。「こんな撮影は始めて」と感激していました。

宇宙飛行士の毛利衛さんは、46年前の日食の観察で宇宙への強い興味を持ち、ついには、夢をかなえ宇宙飛行士になったそうです。

参加した金川小学校4年の大友のり路さんは、「今世紀最大の日食をみられて感動しました。26年後は夜行性のカブトムシなどの昆虫の動きが活発になるかどうかと、ダイアモンドリングを見てみたいです」と興奮した様子で感想を発表しました。

Point 日食とは

月が太陽の前を横切るために、月によって太陽の一部(または全部)が隠される現象で、太陽が月によって全部隠されるときに「皆既日食」という。



和田三千徳さん撮影

○福岡 食の始め 9時37分39秒／食の最大 10時56分5秒／食の終わり 12時17分48秒